

第2回日本 AIR Pneumo 講座：

「第6回アジアじん肺レントゲン写真読影医養成
(AIR Pneumo) ワークショップ」を見学させて頂きました

海外邦人医療基金
業務部長 槻谷治文

AIR Pneumo = Asian Intensive Reader of Pneumoconiosis

とは“ILO2000年版じん肺X線写真分類“の理解と活用の為に医師向けに開発された国際的なトレーニングコース。ILO 国際分類を使用したレントゲン撮影技術の向上と世界からじん肺を撲滅するためのILO・WHOによる包括的施策(GPES)に寄与することを目的とする。

2012年8月24, 25日、順天堂大学に於いて、掲題の読影医養成講座を見学して参りました。同会は日本では第2回となりますが、『国際 AIR Pneumo ワークショップ』としては第6回になるものです。

参加者は北は北海道、南は九州からと全国各地から放射線医、産業医、健診機関の方、じん肺審査機関専門家などで15名の先生方が参加されました。



【講座の概要とメニュー】

日時：2012年8月24日（金）～26日（日）（最終日は試験日）

場所：順天堂大学病院（お茶の水）

主催：AIR Pneumo 日本企画運営委員会

共催：日本医師会、順天堂大学医学部放射線科、AIR Pneumo 国際委員会

後援：順天堂大学、福井大学、日本呼吸器学会、日本産業医学会、ILO 駐日事務所、
キャノン（株）コニカミノルタホールディング（株）

8月24日(金)

・開会式：

＊順天堂大学医学部放射線科 桑鶴良平教授（日本 AIR Pneumo 企画運営委員会委員長）

挨拶・本講座が極めて密度が濃い講義・実習で成り立っており、受講後はじん肺のエキスパート、一般レントゲン読影ではプロ級になること請合いと受講者を激励

＊環境省石綿補償検討委員 志田寿夫氏（AIR Pneumo 顧問）

挨拶・他機関の通り一遍のセミナーでは不十分で現場で往々にして混乱が起きる。本講座は国内では唯一の本格的専門講座と強調

＊ILO 上岡恵子 駐日事務所所長

挨拶・ILO 本部（ジュネーブ）本部からのメッセージを披露

＊財団法人 海外邦人医療基金 倉林英彦専務理事

挨拶・海外邦人医療基金の活動の簡単な紹介と本講座開会への賛辞

・じん肺の病理学（講義：本間浩一獨協大学医学部病理 准教授）

・ILO2000 年版じん肺レントゲン写真国際分類の入門（講義：日下幸則 福井大学医学部環境保健学領域 教授）

・レントゲン写真の画像評価（講義：鈴木一廣 順天堂大学医学部放射線科 助教）

・ILO2000 年版分類体系の概要（講義とフィルム読影実習：菅沼成文 高知大学教育研究部医療学系医学部門 医療学講座環境医学分野 教授）

・小陰影 粒状影と不整形陰影（講義と実習：日下幸則 教授）

・大陰影（講義と実習：菅沼成文 教授）

・胸膜異常陰影（講義と実習：日下幸則 教授）

・日本の石綿肺と法体系（講演：志田寿夫顧問 環境省石綿補償検討委員）

・日本 AIR Pneumo 企画運営委員会

8月25日(土)

・悪性胸膜中皮腫の病理（講義：樋野興夫 順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授）

・じん肺のX線診断学（講義：審良正則先生 国立病院機構近畿中央胸部疾患センター放射線科部長）

・じん肺におけるCT診断（講義：田村太朗 福井大学医学部国際社会医学講座環境保健学領域 助教）

・付加記号（講義と実習：菅沼成文 教授）

・AIR Pneumo プログラムの概要（講義：日下幸則 教授）

・30 症例の多数独立読影練習（フィルム読影実習 30 枚 x 3 分間：日下教授、菅沼教授）

・多数独立読影結果の講評と質疑（講義と実習：菅沼教授、日下教授）

8月26日(日)

・試験の注意（田村助教）

・60 症例のフィルム読影試験

- ・出席証の授与（AIR Pneumo 日本企画運営委員長）
- ・閉会式（AIR Pneumo 国際委員長）

クレジット：①日医認定産業医実地 3 単位、②呼吸器専門医単位 2 単位

【感想とつぶやき】

実は小生の本講座への関わりは「AIR Pneumo って何？」からスタートしました。AIR⇒空気⇒呼吸だから「AIR Pneumo」で「肺」或は「呼吸器或は肺に係る疾病」という意味なのかなーと勝手に思い込んでいました。当日の資料で冒頭の AIR Pneumo 説明見て我ながら失笑した次第です。

さて、本番での講義内容は将に題目通りですが、あまりに専門的で、医師でも看護師でもレント

ゲン技師でもカメラマンでもない凡人の小生にはそれを理解しX線写真の画像評価から各陰影の分類・評価などをILO様式の英語表記読影表に記入していく、しかも1枚当たりなんとたったの3分間でなど20年たっても出来ないと思いましたが15名の受講者(皆様立派なお医者様で大学教授から大学院生まで老若男女)は流石に最終日の試験を控え一言も漏らすまいと必死に聴講、目を凝らしてたくさん症例を食い入るように見(診)ておられました。

厳しめの日下先生(AIR Pneumoの世界では「鬼軍曹」と畏れられているそうですー笑)のハイテンポの講義に皆さん各サンプル画像のシャウカステンへのセットも慌しく付いていくのに必死の様子でしたが、実習では鬼軍曹から「良く理解している、素晴らしい」との声も出ていました。

自分は既述の通りズブの素人なので他受講者と受講印象はまったく異なるし(申し訳なくもテストもないので気楽なものでしたが)、理解のレベルも次元の違うものであったことは疑

いようがありませんが、素人として印象に残った事：



- ① (日下先生読影中に曰く)我々は(問題が)有りというものを無しとすることが失うものが大きい(見逃すな)。だからと言って全て(安易に)有りとするのも問題あるが・・・
医療、医師の責任の重さ、難しさを垣間見たような・・・。
- ② (再び日下先生)写真読影は必ずスタンダードな写真と比べて判断すること「心の標準写真」ではなく。・・・過信を戒め正確、厳格な評価をするというやはり医師のあるべきモラルの高さを感じました。
- ③ 環境省石綿補償検討委員である志田先生の初日の講演の際、福島から参加された若い先生が「東日本大震災を契機にじん肺の厚労省認定基準の改善と認定の迅速化を強くアピールすべき」「震災地瓦礫処理の作業員の方々、ボランティアの方々に防塵マスクを徹底させたい」(乾燥した瓦礫から出る石綿粉塵によるじん肺を懸念したもの)その為に行政にもっと積極的に働きかけてほしいと訴えられ、また志田先生もどのようにその若い医師の訴えをサポートし得るかその後もずっと悩んでおられたのが印象的でした。
(なお、今回の震災処理に関しては阪神大震災の際と比べ瓦礫処理の際のマスクの装着率がかなり上がっているとの話もありましたが、まだまだ全体には至ってないようです。皆さん気を付けて)

最後に、24、25日はそれはもう「これでもか」という酷暑の中でのセミナーでしたが、先生方はAKB48東京ドーム公演のあおりで近隣のホテルが全く取れないため遠隔地の旅館の大部屋に泊まれ、連日遠路からの出勤でした。本当にご苦労様でした。また受講者の皆様も3日間ご苦労様でした。また来年も東京で本講座が開催され一騎当千のじん肺読影医が沢山誕生されんことを祈念致します。